

内幸町一丁目街区まちづくりガイドライン

令和3年4月

日比谷地区（内幸町 一丁目街区）まちづくり勉強会
千代田区

0. はじめに

内幸町一丁目街区まちづくりガイドラインの位置付け

内幸町一丁目街区及び有楽町一丁目街区で構成される日比谷エリアは、大手町・丸の内・有楽町、銀座、新橋・虎ノ門、皇居、日比谷公園といった日本有数の業務・商業エリアや代表的な公園に隣接しており、首都東京における稀有な位置と高いポテンシャルを有している。また、平成23年6月には「日比谷エリアまちづくり基本構想（以下、基本構想）」が策定されている。

このうち有楽町一丁目街区においては、平成24年12月変更（区域の拡大）の地区計画を契機とし、東京ミッドタウン日比谷の開業、日比谷仲通り（歩行者専用道路）の整備による南北軸の延伸や地下歩行者ネットワーク形成等の基盤整備が進むとともに、エリアマネジメント組織による千代田区の広場等を活用したイベントの実施や適切な維持管理等によって、賑わいあるまちづくりが継続して行われている。

一方、内幸町一丁目街区においては、6haを超える大規模な街区に、高度な業務機能や迎賓機能等が集積していることに加え、首都の中核機能を支える重要なインフラ施設が存するものの、築年数を経過した建物が多く、機能更新が求められている。また、街区には周辺地域と連絡する歩行空間や広場などが不足していることから、地域に開かれた街区としての機能更新も求められている。

このため、内幸町一丁目街区において、基本構想策定後の上位計画におけるまちづくりの考え方、周辺のまちづくりの動向、街区における課題などを踏まえ、「内幸町一丁目街区まちづくりガイドライン」として、目指すべきまちづくりの方針を示すこととする。

なお、本ガイドラインは、長期にわたる機能更新の方針になることから、社会の状況の変化等に合わせ、随時見直しを図っていくものとする。



平成23年6月 日比谷エリアまちづくり基本構想

世界に誇れる日比谷エリアの再生と都市ブランドの創造を目指すため、本エリアにおいて地元・都・区が開発計画を推進していく際に共有すべきまちづくりの将来像について、地元を中心として議論し、まちづくりの概ねの方針を共有する

上位計画等

平成29年9月

都市づくりのグランドデザイン

【東京都】

2040年代を目標時期として、目指すべき東京の都市の姿と、その実現に向けた都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示す

平成30年12月

日比谷公園グランドデザイン

【東京都】

都民や利用者、周辺のまちと公園の将来像を共有し、公園の魅力向上を図るため、日比谷公園の将来像を利用者の視点から明らかにし、将来像の実現のための主な取組みを示す

令和2年12月

日比谷公園再生整備計画（中間まとめ）

【東京都】

東京の代表的な都市公園としての役割の強化と周辺のまちづくりに寄与していくよう、本公園の再生整備計画を提言するものである

令和3年2月

千代田区都市計画マスタープラン「答申」

【千代田区】

2040年頃を目標年次とし、具体的なまちづくりの端緒となる目標・方針を定めることを目的として、3つの視点「人が主役のまちづくり」「豊かな都心生活の継承・創造」「加速する社会の変革を支えるまちづくり」に基づき、都市計画マスタープランを改定する

有楽町一丁目街区の動向

- ・東京ミッドタウン日比谷の開業
- ・日比谷仲通り(歩専用)整備による南北軸の延伸
- ・広場・地下歩行者ネットワークの形成
- ・エリアマネジメントによるイベント、区道等の維持管理の実施

豊かな公共的空間の創出等により、賑わいある開かれたまちの形成が進展



日比谷仲通り（歩専用）



街区内地上路場

内幸町一丁目街区の動向

- ・高度な業務機能や宿泊機能等が集積
- ・首都の中核機能を支えるインフラ施設が立地
- ・建物は築年数が経過するなど機能更新が必要
- ・周辺地域と連絡する歩行空間や広場などが不足し、閉ざされたエリアとなっている

周辺地域に開かれた、街区一体となったまちづくりが必要



内幸町一丁目街区

内幸町一丁目街区まちづくりガイドライン

周辺のまちづくりの動向、当街区の課題、上位計画におけるまちづくりの考え方などを踏まえ、

当街区における目指すべきまちづくりの方針を策定

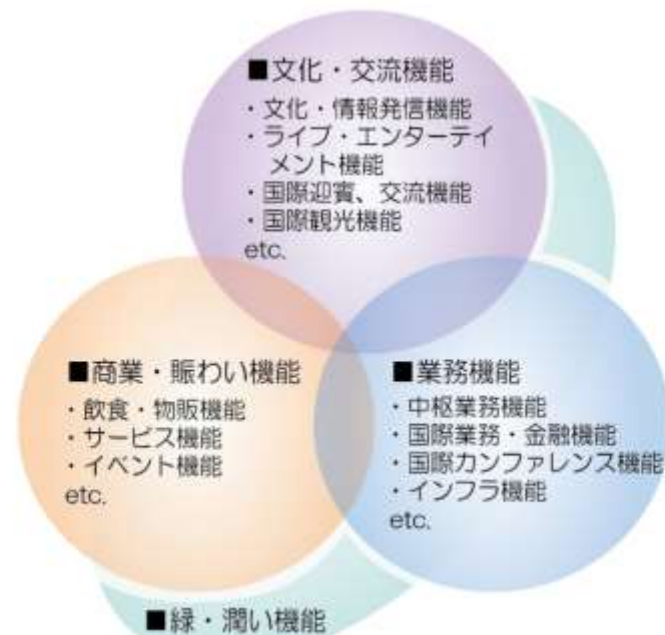
1. 日比谷エリアまちづくり基本構想：平成23年6月（抜粋）

1) まちづくりの目標

まちづくりの目標①

文化・交流機能の集積や日比谷公園への隣接を活かした都心拠点の形成

文化・交流機能をはじめとする既存機能の集積や日比谷エリアの歴史、さらに日比谷公園に正対する立地を活かし、文化・交流機能、商業・賑わい機能、業務機能等が緑・潤いある中で互いに魅力を高めながら複合し、都市環境に配慮した、先進的で風格ある都心拠点を形成する。



■文化・交流機能

当エリアに集積する劇場・映画館等の文化・芸術機能や、帝国ホテル等に代表される迎賓・交流機能の歴史と集積を活かし、必要に応じて機能の更新・連携強化を行いながら、まちの特色をより強化する。

■商業・賑わい機能

観劇前後や滞在中に楽しめる飲食・物販機能、サービス機能の強化や、イベント機能の導入等によって、まちの賑わいを創出する。

■業務機能

日本を代表する企業の本社が集積してきた歴史を継承し、新たな時代にふさわしい先進的で風格あるビジネス拠点を形成するため、業務機能の更新・強化を図る。

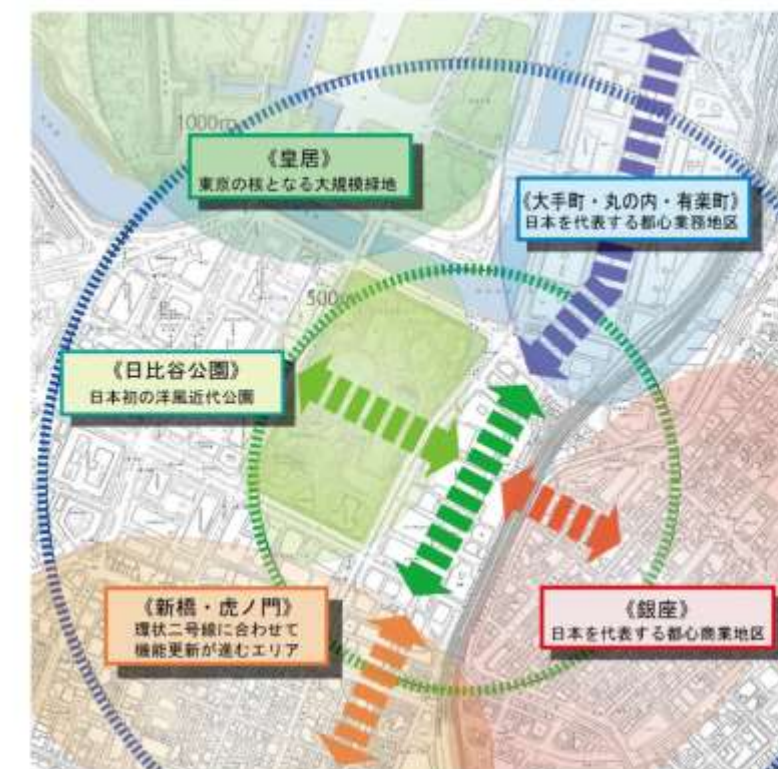
■緑・潤い機能

都心の稀有な大規模緑地である日比谷公園に正対する立地を活かし、当エリアにふさわしい緑・潤い機能を導入することによって、居心地のよい空間を演出する。

まちづくりの目標②

周辺エリアとネットワーク化した緑あふれる回遊拠点の形成

大規模緑地である日比谷公園・皇居や、都心業務地区である大丸有地区、環状二号线整備に合わせて機能更新が進む新橋・虎ノ門地区、都心商業地区である銀座地区と隣接する日比谷エリアの立地特性を活かし、これらとつながり、開かれた、緑あふれる都心の回遊拠点を形成する。



■周辺エリアとつながる、南北の歩行者ネットワークの形成

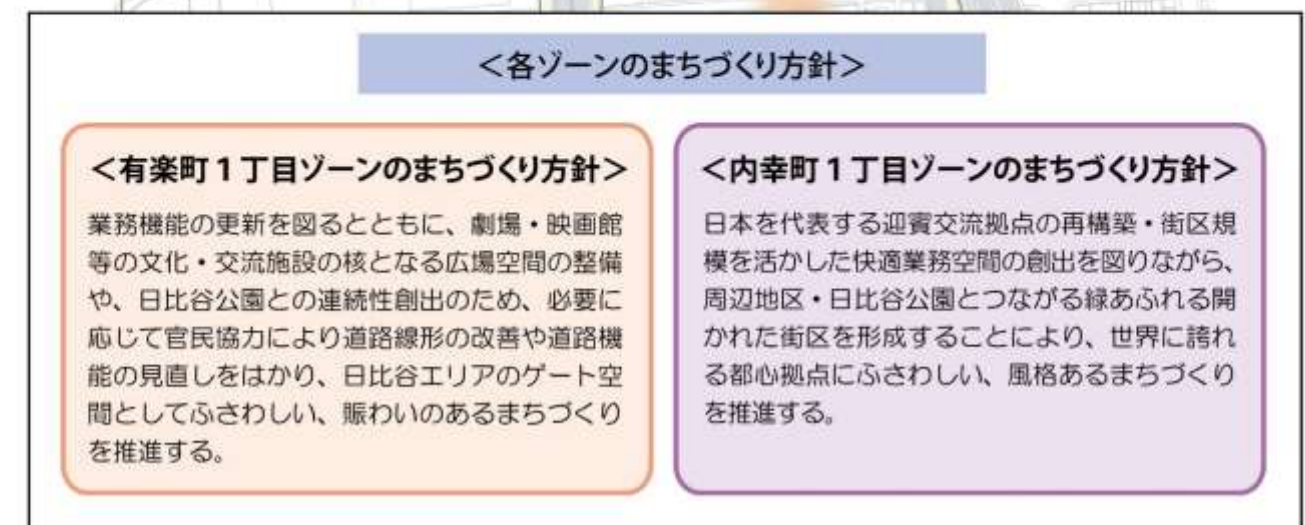
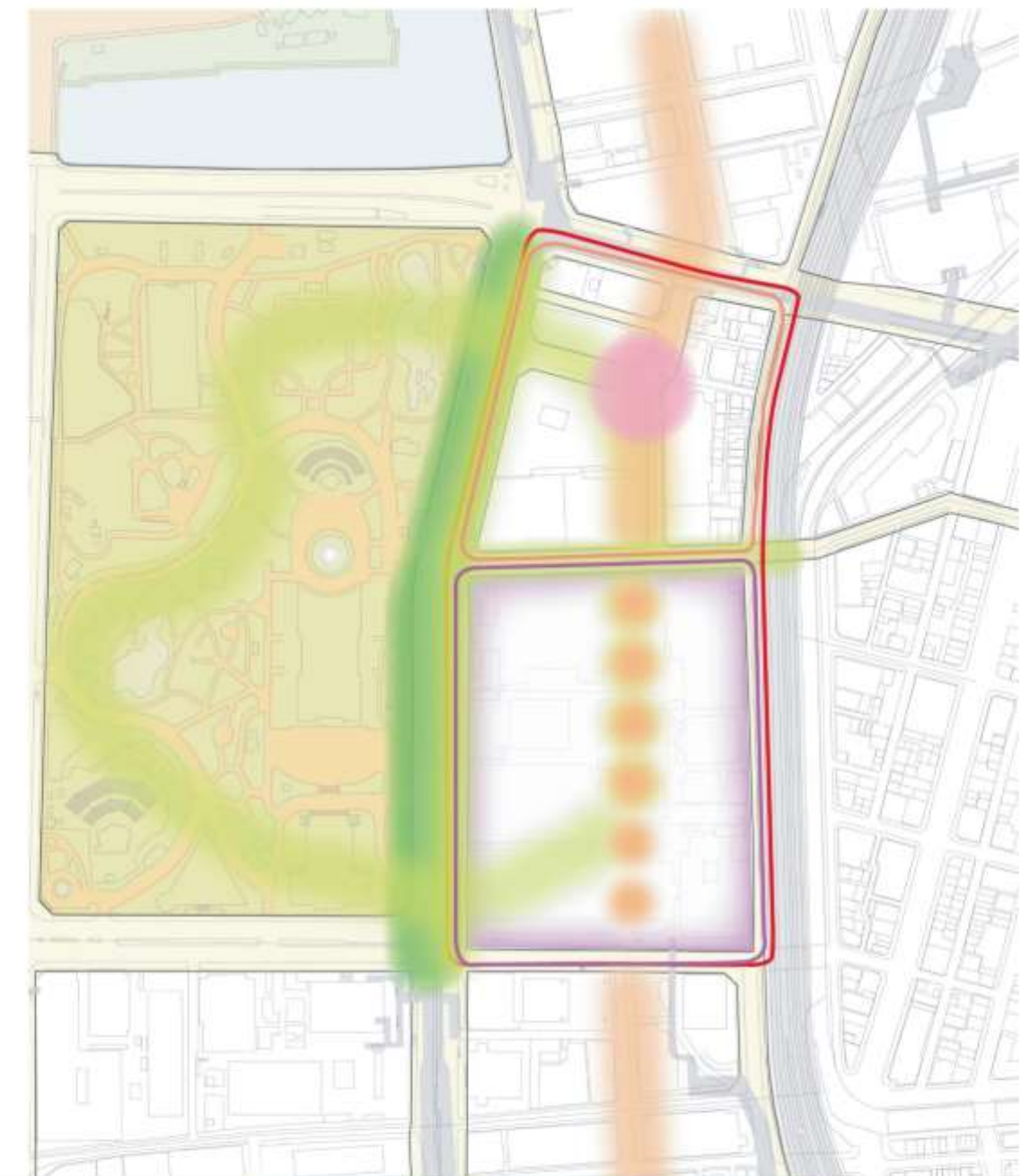
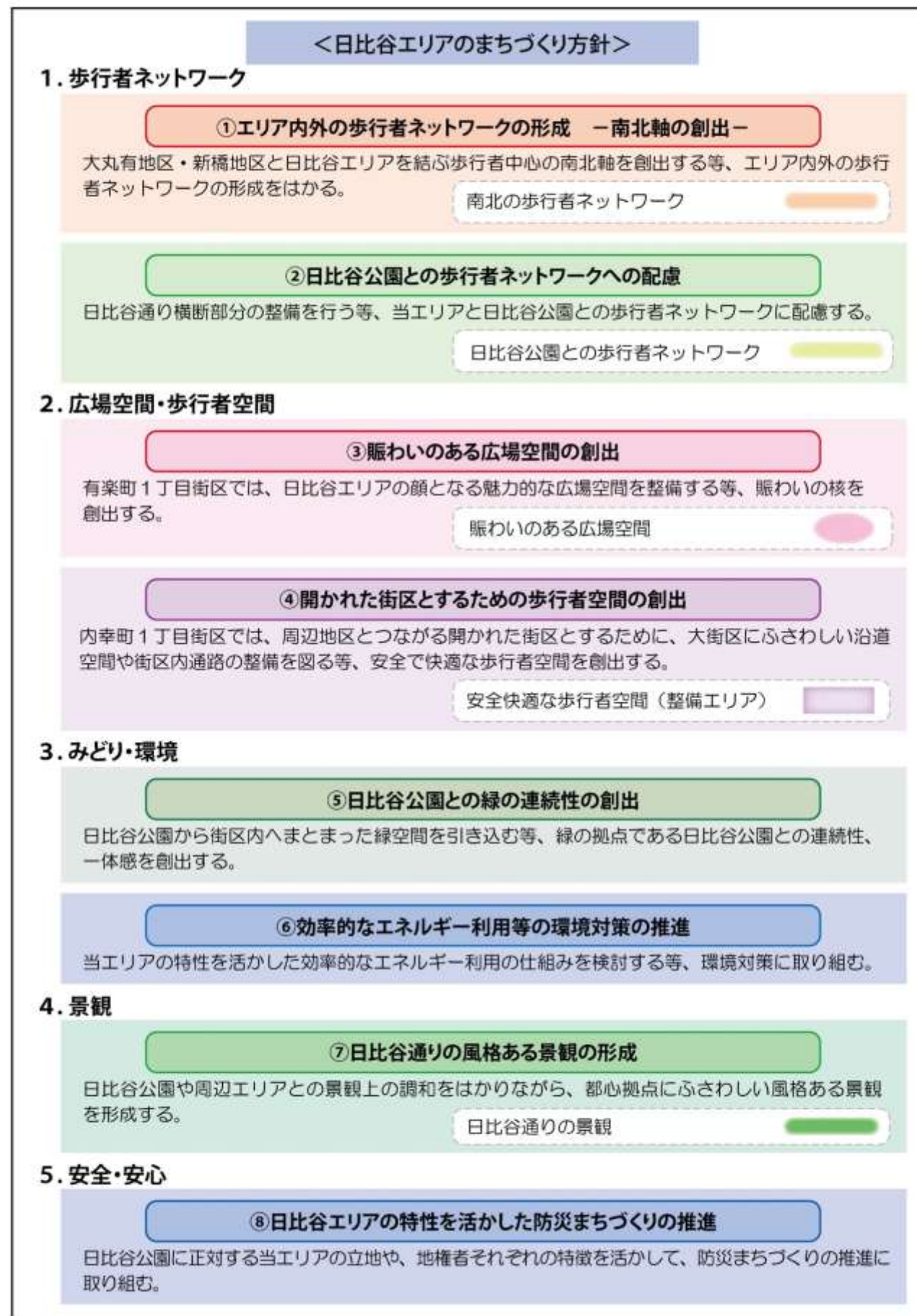
日本を代表するビジネス街である大丸有地区を貫通するアメニティ・賑わい軸“丸の内仲通り”と、環状二号线整備に合わせて機能更新が進む新橋・虎ノ門地区を貫通し快適な歩行空間整備が予定される“赤レンガ通り”を接続する南北歩行者ネットワークをエリア内に形成することで、日比谷エリアを周辺に開き、広域的なひとの流れを創出する。

■日比谷公園との緑のネットワークの創出

日比谷公園から緑を引き込むとともに、公園とのつながりを強化することで、公園とまちの回遊性を促進する。

1. 日比谷エリアまちづくり基本構想：平成23年6月（抜粋）

2) まちづくり方針



2. 内幸町一丁目街区の特性と目指すべき方向性

内幸町一丁目街区の特性

特性① 歴史ある国際迎賓拠点

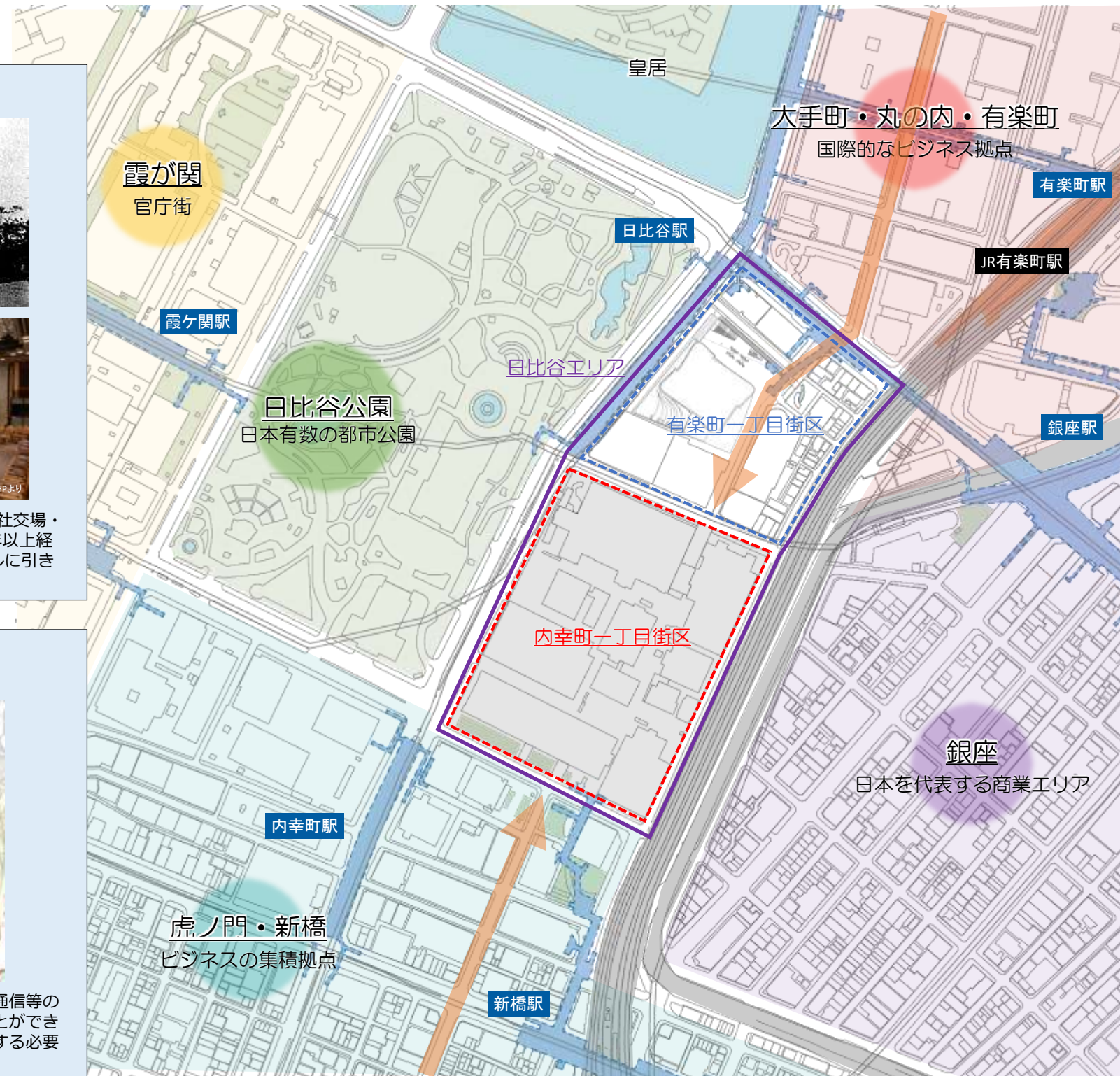


1800年代後半に国賓や諸外国の外交官をもてなす社交場・迎賓館として鹿鳴館と帝国ホテルが誕生し、100年以上経過してなお、国際迎賓拠点として現在の帝国ホテルに引き継がれている。

特性② 首都の中核機能を支える電力・通信等重要インフラ拠点



エリア内において首都の中核機能を支える電力・通信等の重要インフラ施設を有しており、途絶えさせることができない。一方で、将来を見据えた保全・更新を考慮する必要がある。



特性③ 建替え等更新が進んでいない閉ざされたエリア



基本構想策定後約10年経過後も依然として建替え等更新が進んでおらず、6ha超のエリア内には、来街者が通り抜けできる歩行者空間がなく、公共的空間も不足しており周辺に対し閉ざされたエリアとなっている。

特性④ 日本有数の都市公園や拠点機能を有する多様なエリアに隣接



江戸時代の遺構が残る我が国初の近代洋風公園としての開園以来、世界の人や文化、時代を象徴する多様な活動が行われ、皇居とともに首都東京のみどりの核でもある日比谷公園に隣接している。



隣にビジネスやエンターテインメントで賑わいのある有楽町一丁目街区があり、国内最大のビジネス拠点である大手町・丸の内・有楽町、日本有数の商業エリアである銀座、虎ノ門や汐留と連携し集積力の高まる新橋、政府中枢の官庁街である霞が関が隣接する高次の開発ポテンシャルを有するエリアである。

内幸町一丁目街区が目指すべき方向性

- ・首都中枢を支える重要機能が集積するエリアとして、「首都中枢を支える重要機能を継続しながら更新」
- ・日本有数の都市公園や拠点機能を有する周囲のエリアの結節点として、「周辺のまちに開かれた街区の形成」

内幸町一丁目街区では、首都機能を支えるインフラ施設等の機能を継続しながら、街区一体となったまちづくりを図るとともに、日比谷公園、大手町・丸の内・有楽町地区、有楽町一丁目街区、銀座地区、虎ノ門・新橋地区の結節点として、開かれた街区とするため、地下・地上、デッキレベルを活用して、回遊性の高い歩行者ネットワークの形成やインフラ施設の保全、日比谷公園のみどりを引き込むなど潤いや賑わいを創出し、防災性の向上を図る大規模広場空間を創出する。あわせて、国際迎賓・文化・交流機能の拡充等により、国際ビジネス交流拠点を形成する。

3.当街区が目指すまちづくりの整備方針について

＜内幸町一丁目街区におけるまちづくり方針＞

1.歩行者ネットワーク

駅・まち・公園を一体で結んだ歩きたくなる立体回遊ネットワークの形成

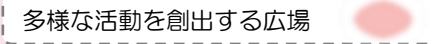
- 公園とまちを結ぶ「東西の歩行者ネットワーク」と賑わいを結ぶ「南北の歩行者ネットワーク」、地下鉄とまちを結ぶ「地上・地下の歩行者ネットワーク」を結節し、駅・まち・公園をつなぐ歩行者の回遊性を向上
- 車等の交通動線を整理し、地上部のゆとりと賑わい・潤いや風格のある魅力的な歩行者空間の形成



2.広場空間

公園と周辺の個性的なエリアを結ぶ拠点となる多様な活動を生む広場の創出

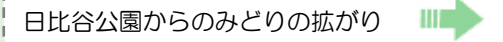
- 東西南北の歩行者ネットワークが結節する場所に、多様な都市活動が生まれるまちに開かれた大規模広場の創出
 - 公園とまちの多様な機能（散策・回遊・休憩・憩い・賑わい等）がつながる園路・立体的な広場空間の創出
 - 最先端のICT技術等を活用し、通常時も災害時も多様に使われる魅力的な広場の創出
- 多様な活動を創出する広場



3.みどり・環境

皇居・日比谷公園からまちへと広げるみどりのネットワークの拠点の形成

- 日比谷公園のみどりを引き込むことで公園とのつながりを感じられ、周囲のまちに広げるようにみどりを配置することで、東京のみどりの拠点である皇居や内濠、日比谷公園からまちへとつなぐみどりのネットワークの拠点形成
 - 皇居や内濠、日比谷公園のみどりや水辺から多様な生物が生息する空間を広げ、快適な都市環境を形成
- 日比谷公園からのみどりの拡がり
 



4.景觀

都心拠点としての個性と周辺エリアとの調和が共存した都市景観の形成

- 調和のとれた「まちのシルエット」に配慮し、皇居を中心とした緩やかなすりばち状のスカイラインを形成
- 皇居周辺からの眺望に配慮した配棟計画や隣接する日比谷公園への圧迫感を抑制する建築計画など、群としてのデザインに配慮し、内幸町の個性と周辺との調和が共存した都市景観を形成

日比谷公園との繋がりや歴史・風格・賑わい・潤い等の特性を活かした沿道景観の形成

- 各通りに面する部分や街区角部など視線を受け止める部分は、通りの個性を活かした街の顔となる景観を形成
- エリアマネジメントを通じ、広場等を活用した賑わいの形成など、多様な体験・アクティビティがまちに表出する新たな景観の形成

5.環境・安全・安心

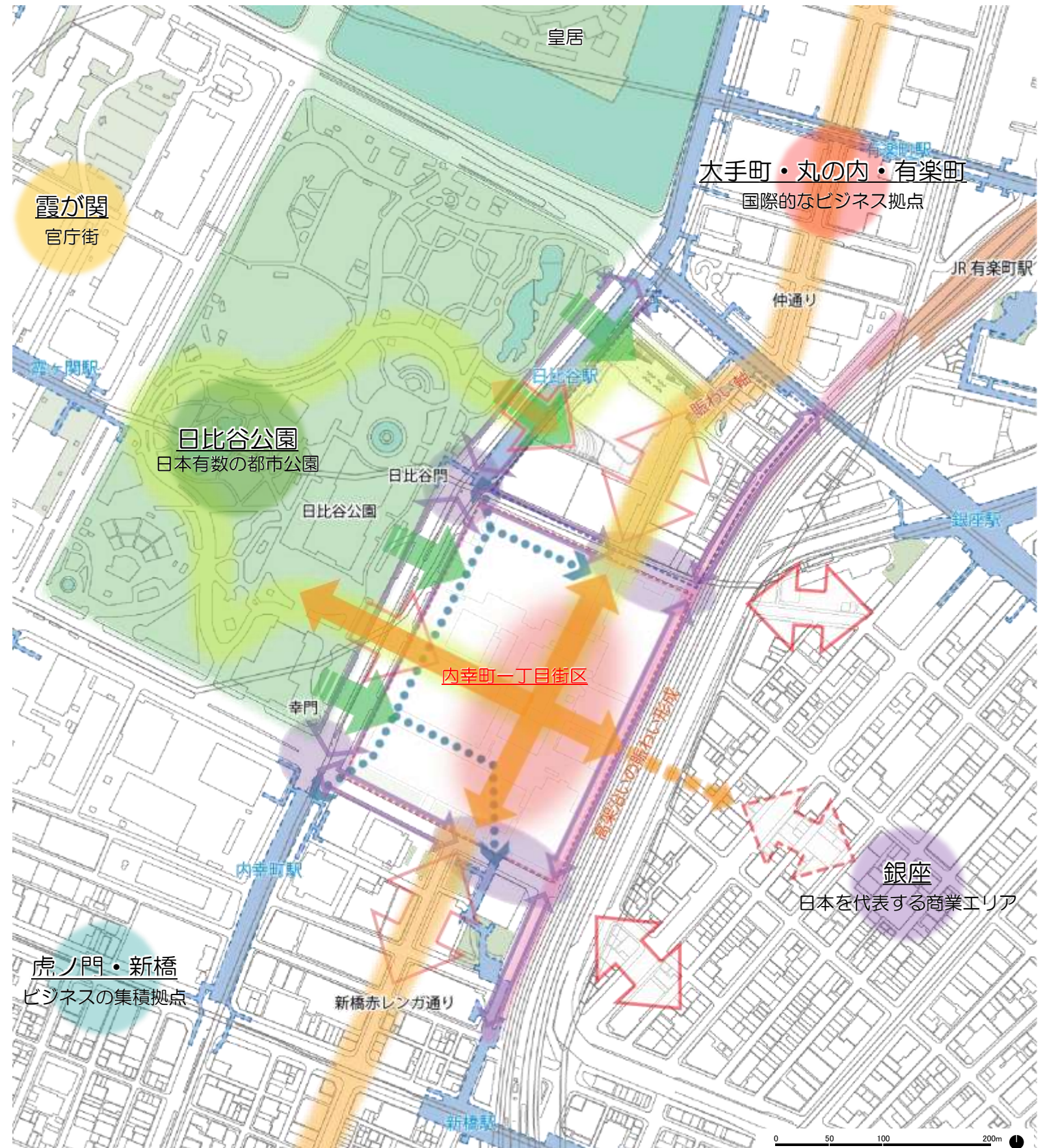
街区の特性を活かした内幸町らしい環境・防災まちづくりの推進

- 首都の中核機能を支えるインフラの保全・更新とエネルギーネットワークによる環境・防災性能の向上
- 多様性のある複数の拠点や公園に隣接する立地特性を活かしたエリア防災力・共助体制の強化
- 段階的な機能更新状況に応じた、災害時の柔軟な対応

6. 拐点形成

周辺の特徴あるエリアをつなぐ個性ある新たな都心拠点の形成

- 日本を代表する国際迎賓・文化・交流拠点
- 最先端技術等を備えた新しい国際ビジネス交流拠点
- 新たなワーク・ライフスタイルの創造支援拠点



3.当街区が目指すまちづくりの整備方針について

2) 広場空間

まちづくり基本構想 全体編

③賑わいのある広場空間の創出

④開かれた街区とするための歩行者空間の創出

周辺地区とつながる開かれた街区とするために、大街区にふさわしい沿道空間や街区内部通路の整備を図る等、安全で快適な歩行者空間を創出する。

当街区を含むまちづくりの考え方（上位計画）

【千代田区都市計画マスタープラン「答申」：千代田区】

- ・文化交流施設が集積する界隈や日比谷公園との一体性・回遊性が高まるよう、地上の広場・歩行者空間、有楽町駅からつながる地下空間を活かしたまちづくりを進めていきます。

【日比谷公園ランドデザイン 5つの提言：東京都】

- ・公園が周囲のまちに溶けこみ、まちと共に新たな魅力や賑わいを創出するとともに、公園が核となり、まちに緑が拡がり、緑のネットワークの形成を促進する。

当街区の周辺状況と地域特性

- ・当街区は周囲から閉ざされたエリアとなっており、まちに開かれていない。
- ・有楽町一丁目街区は、多様な広場やオープンスペースが創出されている。
- ・日比谷公園は、性格の異なる多様なまちに囲まれ、エリアごとに多様な特徴や使われ方がされている。
- ・銀座エリアは日本を代表する商業地であり、まとまったオープンスペースが少ない街並み形成となっている。
- ・JR高架下では再整備により賑わい空間が創出されている。
- ・東京高速道路（KK線）再生方針の整備・誘導方針において、みどりとオープンスペースの形成が示されている。

整備方針

【公園と周辺の個性的なエリアを結び拠点となる多様な活動を生む広場の創出】

- 東西南北の歩行者ネットワークが結節する場所に、多様な都市活動が生まれるまちに開かれた大規模広場の創出
- 公園とまちの多様な機能（散策・回遊・休憩・憩い・賑わい・居住等）がつながる園路・立体的な広場空間の創出
- 最先端のICT技術等を活用し、通常時も災害時も多様に使われる魅力的な広場の創出

周辺エリアの特徴を踏まえ
街区の玄関口となる受け空間の創出

公園とまちの多様な機能が
つながる
園路・広場空間の創出

公園とまちの歴史や文化、多様な活動を体感でき、
散策・回遊・休憩・憩い・賑わいなど公園とまち
が多様なアクティビティでつながる園路・広場

公園とまちの多様な関係性
をつなぐ立体的な広場の創出

日比谷公園・大丸有・日比谷・新橋などの多様なエリアをつなぐ
東西南北の歩行者動線が交わる場所に
多様な都市活動が生まれるまちに開かれた大規模な広場の創出

3.当街区が目指すまちづくりの整備方針について

3) みどり

まちづくり基本構想 全体編

⑤日比谷公園との緑の連続性の創出

日比谷公園から街区内へまとまった緑空間を引き込む等、緑の拠点である日比谷公園との連続性、一体感を創出する。

当街区を含むまちづくりの考え方（上位計画）

【都市計画マスタープラン「答申」：千代田区】

- 日比谷公園周辺では、公園とのつながりを意識した緑化や憩いの空間、眺望空間を創出するなどして、都心の豊かな環境を感じられるようにしていきます。

【日比谷公園ランドデザイン 5つの提言：東京都】

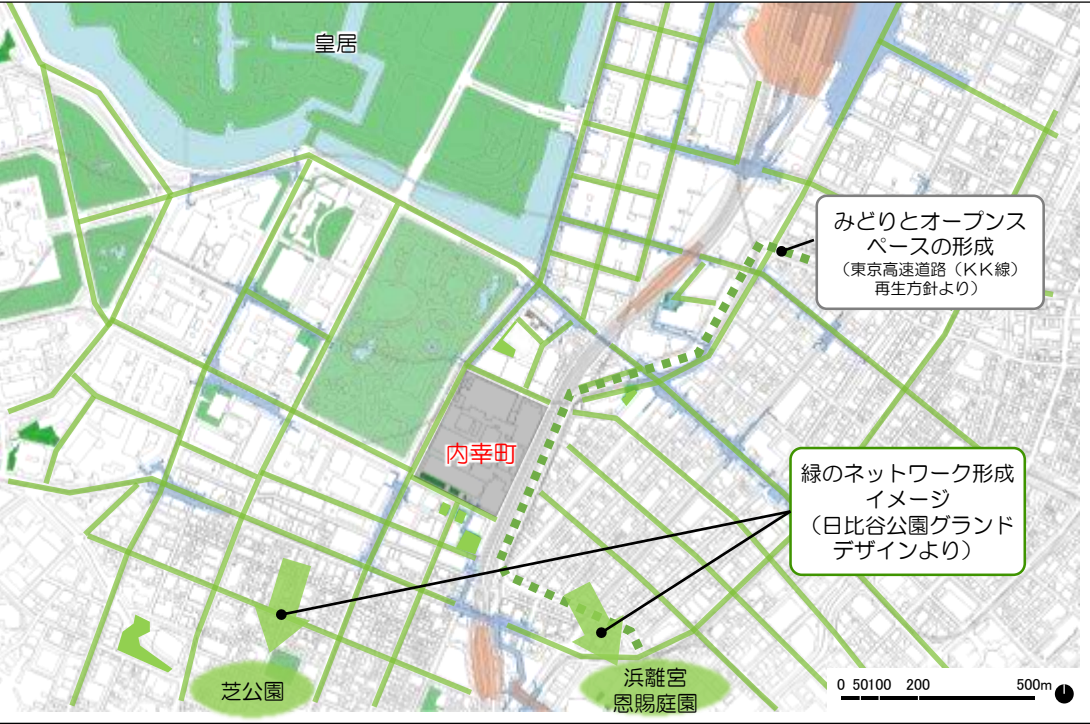
- 日比谷公園周辺の緑のネットワークを核に、まちづくりに伴い創出される緑やオープンスペースを連続させ、都立公園等の緑の拠点とつなぐ都市の緑の骨格を形成していく。
- 日比谷公園を結節点として、皇居に生息する多様な生き物の生息域を周辺に創出された緑へと拡げ、エコロジカルネットワークを形成する。

【緑の基本計画：千代田区】

- 内濠リングの自然をまちなかへと広げるため緑あふれる公開空地が連続するよう努めていく。

当街区の周辺状況と地域特性

- みどりの拠点である日比谷公園に隣接しながらも、エリア内では緑を身近に感じられる緑化空間や街路樹が少ない。
- 閉じられた街区形成により、みどりのネットワークが途切れている。
- 東京高速道路（KK線）再生方針の整備・誘導方針において、みどりとオープンスペースの形成が示されている。



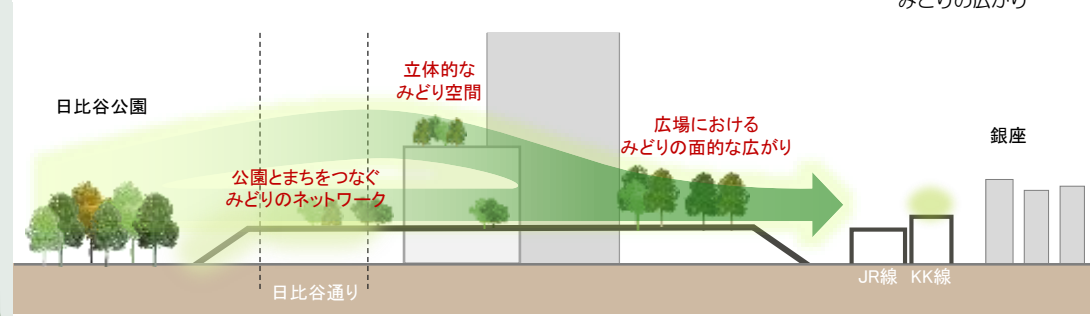
整備方針

【皇居・日比谷公園からまちへと広げるみどりのネットワークの拠点の形成】

- 日比谷公園のみどりを引き込むことで公園とのつながりを感じられ、周囲のまちに広げるようにみどりを配置することで、東京のみどりの拠点である皇居や内濠、日比谷公園からまちへとつなぐみどりのネットワークの拠点形成
- 皇居や内濠、日比谷公園のみどりや水辺から多様な生物が生息する空間を広げ、快適な都市環境を形成



東京の緑の拠点である皇居から日比谷公園とまちをつなぐ
立体的・面的に広がる多様なみどりの創出



沿道部の緑化



- みどりと潤いを感じられる快適な歩行者空間の創出

公園とまちをつなぐ
みどりのネットワークイメージ



立体的なみどりのイメージ



みどりの面的な拡がりのイメージ



- 花木による彩や緑陰による快適な空間など、都市のアクティビティを創出し、みどりの多様なあり方を体験できる広場空間
- 公園とまちをつなぎ散策・回遊を促進する、みどりのネットワークの形成
- 基壇部緑化による立体的なみどりの拡がり、緑被率向上によるヒートアイランド緩和への寄与
- エコロジカルネットワークへの配慮

3.当街区が目指すまちづくりの整備方針について

4) 景観

まちづくり基本構想 全体編

⑦日比谷通りの風格ある景観の形成

日比谷公園や周辺エリアとの景観上の調和を図りながら、都心拠点にふさわしい風格ある景観を形成する。

当街区を含むまちづくりの考え方（上位計画）

【千代田区景観まちづくり計画：千代田区】

- 大規模な街区で構成される風格がある景観となるよう工夫する。
- 低層部は、ゆとりや賑わいが感じられる街並みとなるよう工夫する。
- 首都にふさわしい風格を光で演出するとともに、皇居周辺では、豊かな自然環境や生態系に配慮し、皇居の森やお濠の暗さを活かした美しく落ち着いた印象的な夜間景観を形成する。
- 建物の高さは、皇居の水や緑と一体となった広がりや眺望確保を図るとともに、皇居や国会議事堂との調和を図る。また、高層部分は、群としてデザインされたものとする。

【日比谷公園ランドデザイン 5つの提言：東京都】

- 周辺のまちづくりに当たって、公園からの見え方を考慮した建築物の配置やデザイン等との調整を図り、公園の魅力的な景観を保全、創出する。

当街区の周辺状況と地域特性

- 丸の内～日比谷まで、風格ある日比谷通り沿いの景観形成がされている。
- 街区周囲は、個性ある通りに面している。

大手町、丸の内、八重洲、有楽町、常盤橋の各拠点においては、その拠点性や街並みの多様性の表象として、本地区全体のスカイラインの調和に配慮しながら、概ね200m程度
大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくりガイドライン2020より

丸の内～日比谷につながる風格ある日比谷通り沿道の景観

皇居

大手町拠点

常盤橋拠点

日本橋川沿いエリア

日本橋駅前拠点

日本橋

丸の内拠点

JR東京駅

八重洲拠点

東京駅前拠点

京橋駅前拠点

有楽町駅

有楽町拠点

銀座駅

銀座

日比谷公園

日比谷拠点

内幸町

桜田門駅

霞が関

霞ヶ関駅

虎ノ門駅

虎ノ門エリア

六本木・虎ノ門地区

新橋西エリア

新橋駅周辺エリア

新橋駅

JR新橋駅

整備方針

【都心拠点としての個性と周辺エリアとの調和が共存した都市景観の形成】

- 調和のとれた「まちのシルエット」に配慮するため、皇居を中心とした緩やかなすりばち状のスカイラインを形成
- 皇居周辺からの眺望に配慮した配棟計画や隣接する日比谷公園への圧迫感を抑制する建築計画など、群としてのデザインに配慮し、内幸町の個性と周辺との調和が共存した都市景観を形成

【日比谷公園との繋がりと歴史・風格・賑わい・潤い等の特性を活かした沿道景観の形成】

- 各通りに面する部分や街区角部など視線を受け止める部分は、通りの個性を活かした街の顔となる景観を形成
- エリアマネジメントを通じ、広場等を活用した賑わいの形成など、多様な体験・アクティビティがまちに表出する新たな景観の形成

日比谷通りに続く高さ31m程度の連続した表情線の延伸

仲通りから続く賑わい軸の延伸

多様なアクティビティが表出する賑わいある景観形成＜広場＞

- 最先端技術の活用等による新たな賑わい景観の形成
- 建物内外が一体となった新たなアクティビティの創出
- エリアマネジメントを通じた賑わいある景観形成

個性ある周辺道路への顔出し＜みゆき通り＞

日生劇場

みゆき通り

歩道状空地

建物

有楽町一丁目街区との歴史性のあるつながりを感じさせる顔づくり

個性ある周辺道路への顔出し＜国会通り＞

国会通り

歩道状空地

建物

国会通りとしてのビスタ景を活かした沿道の緑化等を通じた顔づくり

個性ある周辺道路への顔出し＜JR側通り＞

広場

歩道状空地

車道

歩道

賑わいの顔出し

高層下の賑わい形成

両側に低い軒並みが連続し、賑わいが呼応するヒューマンスケールな顔づくり

個性ある周辺道路への顔出し＜日比谷通り＞

個性ある周辺道路への顔出し＜日比谷通り＞

立体的なパブリック動線および公共空間の表出

基壇部緑化

歩道状空地

建物

縦動線

約31m

9

3.当街区が目指すまちづくりの整備方針について

5) 環境・安全・安心

まちづくり基本構想 全体編

⑥効率的なエネルギー利用等の環境対策の推進

当エリアの特性を活かした効率的なエネルギー利用の仕組みを検討する等、環境対策に取り組む

⑧日比谷エリアの特性を活かした防災まちづくりの推進

日比谷公園に対する当エリアの立地や地権者それぞれの特徴を活かして、防災まちづくりの推進に取り組む。

当街区を含むまちづくりの考え方（上位計画）

【千代田区都市計画マスタープラン「答申」：千代田区】

- ・災害時における地域の拠点機能を有するオープンスペースを創出し、防災機能の強化を図る。
- ・国の中枢機能、都心のビジネス・文化交流機能、区の行政機能・医療機関が集積するエリアにおける災害時継続性の確保などを進める。
- ・劣化や老朽化が進む重要な都市基盤施設の更新や長寿命化を進める。
- ・災害時にエリアの避難や帰宅困難者対策、エネルギー確保などの中核を担う建築物における機能の自立性・継続性を確保する。

当街区の周辺状況と地域特性

- ・首都の中枢機能を支えるインフラ施設を有する。
- ・周囲にビジネス拠点や有数の商業観光地、災害時退避場所である日比谷公園を抱えている。

整備方針

【街区の特性を活かした内幸町らしい環境・防災まちづくりの推進】

- 首都の中枢機能を支えるインフラの保全・更新とエネルギーネットワークによる環境・防災性能の向上
- 多様性のある複数の拠点や公園に隣接する立地特性を活かしたエリア防災力・共助体制の強化
- 段階的な機能更新状況に応じた、災害時の柔軟な対応

首都の中枢機能を支える
電力・通信インフラ機能の保全・更新

面的なエネルギーネットワークの構築による
街区BCP強化と環境負荷低減

脱炭素社会の実現に向けた新たなエネルギー
システムの導入検討

- ・創エネ・蓄エネ・省エネの多様なエネルギー環境技術の導入
- ・最先端のICT技術等を活用した高度なエネルギーマネージメント

最先端のICT技術等を活用した広場や街
区内建物等の非常時の対応

- ・震災時の帰宅困難者の受入れスペースの確保
- ・最先端のICT技術等を活用し、災害時のリアルタイムシミュレーションや情報発信、体験型防災訓練など日常における「知る」～災害時における「動く」まで防災まちづくりの推進

都市型水害への対応

- ・雨水流出抑制施設
- ・大規模広場を浸水時の避難等における受け入れスペース等として活用

長期的なまちづくりと周辺地域との連携によるエリア防災力の強化

東日本大震災時の
日比谷公園への避難の様子

外部機関を含めた連携

平時のコミュニティ向上、防災計画等による
非常時の連携した対応力強化

フェーズ別
CCP
エリア防災

日常の幸せが継続する
防災計画やシステムの有効性が高い
個人の災害イメージが明確であり
自分ごととしての対策が図れる

災害対応の日常化
協働の日常化
ソフト対応の実現

CCP（Community Continuity Plan）のイメージ
※CCP：コミュニティ継続・発展の仕組み

